

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
半期	1 年	2	選択
担当教員			
湊上 勇次郎			
G (現代ビジネス学科)	L (基礎科目)	LS (暮らし)	101 (基礎・入門科目)

授業のねらい（概要）	この科目は、社会情勢の変化や経済の出来事、企業経営のあり方などが、どのように私たちの暮らしに結びついているのかを学びます。私たちの社会は、市場経済といわれるシステムですが、まずは、その基本的な仕組みがどうなっているのかを理解します。暮らしを支える消費や貯蓄、働き方、企業の投資活動の役割や意義を学び、政府が行う財政政策や中央銀行（日銀）の金融政策についても、私たちの暮らしに大きな影響を与えていることを学びます。 戦後、すでに70年以上が経過しますが、これまでの私たちの暮らしの歴史的な変遷についても振り返ってみましょう。そしてまた、国際的な側面にも目を向けて、外国との貿易や円高や円安などが、私たちの暮らしとどのように関係しているのかも学んでいきましょう。		
授業計画	第1回 経済の見方—経済主体と市場経済の仕組みについて 予習（時間）：市場経済のシステムの特徴について調べてみる。（120分） 復習（時間）：三つの経済主体の機能について確認する。（120分） 第2回 政府の経済的な役割や市場経済の多様性について 予習（時間）：政府の役割とは何か考え、まとめてみる。（120分） 復習（時間）：混合経済の意義について考える。（120分） 第3回 マクロ経済の基礎—総生産や国民所得、経済成長などの概念、群馬の県内総生産、市内総生産などについて 予習（時間）：GDPやGNPなどの基礎的な用語について調べておく。（120分） 復習（時間）：GDPや経済成長率の国際比較をしてみる。（120分） 第4回 景気の良し悪しはどのように把握するか？ 予習（時間）：景気の良しあしは何によって判断するのか考えてみる。（120分） 復習（時間）：景気の見方を確認しよう。（120分） 第5回 暮らしと景気—景気の現状をどうみるか、景気循環のパターン、今後の景気を予測してみる、また群馬県の景気の動向を探る 予習（時間）：現実の経済情勢、景気の状態をある程度調べておく。（120分） 復習（時間）：アメリカや中国などの景気も調べる。（120分） 第6回 インフレーションとデフレーションについて 予習（時間）：インフレ、デフレとは何か、調べてみる。（120分） 復習（時間）：過去のインフレやデフレの事例を調べてみる。（120分） 第7回 現代の財政について—その役割と国の予算 予習（時間）：国家の最新年度の予算を調べてみる。（120分） 復習（時間）：戦後日本経済での国家財政の変化を調べてみる。（120分） 第8回 家計の役割について—働くこと、消費や貯蓄、税金の負担、ライフスタイル（キャリア） 予習（時間）：高齢社会とは何か、この社会では、どんな問題があるのか考える。（120分） 復習（時間）：生涯にわたって働くことの意義を理解する。（120分） 第9回 雇用・労働をめぐる—賃金、労働時間、労働人口、女性労働、「ワーク・ライフ・バランス」 予習（時間）：日本的な雇用のあり方の特徴、問題点などを探しておく。（120分） 復習（時間）：海外諸国の雇用・労働の現状を調べて、理解を深める。（120分） 第10回 企業経営の在り方—企業の役割、企業の経営戦略、資金の調達や企業間取引関係など 予習（時間）：日米における経営戦略の違いなどをネット情報などで調べておく。（120分） 復習（時間）：地元・高崎（あるいは群馬県）に本社を置く企業を調べる。（120分） 第11回 情報社会の暮らし—産業・社会構造の移り変わり、技術革新、ICT革命（AI、IoT）のもたらす影響など 予習（時間）：技術革新の役割、産業構造とは何かなどを調べる。（120分） 復習（時間）：産業構造の変化を捉えて、今後の方向性を探してみる。（120分） 第12回 日本経済を変えた分岐点—高度経済成長の終わり 予習（時間）：戦後日本経済の歩みの概略をみておく。（120分） 復習（時間）：ドルショックや石油ショックについて確認しておく。（120分） 第13回 日本経済を変えた分岐点—「成長経済」から「成熟経済」へ 予習（時間）：戦後日本経済のとくに1980年代バブル経済について調べておく。（120分） 復習（時間）：プラザ合意やバブル景気、その後の日本の経済について考えてみる。（120分） 第14回 国際経済関係—貿易や海外投資、およびその影響 予習（時間）：日本がどの程度、海外との貿易に依存しているか考えてみる。（120分） 復習（時間）：自由貿易や海外投資の意義を確認する。（120分） 第15回 まとめ—持続可能な経済社会／経済成長の今日的意義、資源・環境問題、少子高齢化問題など 予習（時間）：そもそも経済成長はどんな意義があるのか、考えておく。（120分） 復習（時間）：将来に向けて、国際社会における日本の役割や歴史的な転換期の意味を考えてみる。（120分）		
授業を通して身に付けることができる能力（DP）	経済の基本的な知識、考え方を身に付けることができる。 【身に付くスキル】 地域と関わる力・デジタルリテラシー		
到達目標	①経済問題とは何かを理解できる。 ②暮らしの基盤に経済があることを理解できる。 ③経済の視点から人間の幸せを理解できる。		

課題や小テスト等のフィードバックの方法	課題レポートはチェックの上、返却します。
履修上の注意	ふだんからネット情報や新聞、テレビなどの経済関連報道に関心を払ってほしい。 また、授業では自分なりにメモやノートをとること。
成績評価の方法・基準	①期末の定期試験（70%）②課題レポート（10%）③学修意欲（20%）
教科書	なし（レジュメを毎回、配付します）
参考書・教材	『イコノミクスの世界』 淵上勇次郎（幻冬舎ルネッサンス新書、2019年、880円）、その他授業中に紹介。
備考	講義科目
教員との連絡方法	メールによる（アドレスは授業で案内します）。